



SpectraDAQ-200 スタンドアロン取扱説明

使用手順:

1. SpectraDAQ-200 を USB(3.0 推奨)ポートに接続します。拡張 HUB への接続は回避下さい。
2. ドライバーをインストールします。
*)当該アプリには V.1と V.2 がありますのでご注意ください。SpectraDAQ-200 v.2 では V.2 を使用します。
ダウンロード: <https://www.spectrasoft.jp/archive/download.htm>
3. ドライバーインストール完了後、デバイスマネージャには V.1 で「XMOS USB Audio」、V.2 で「e2esoft iVcom」という名前で認識されます。使用するアプリケーションでこれを選択します。

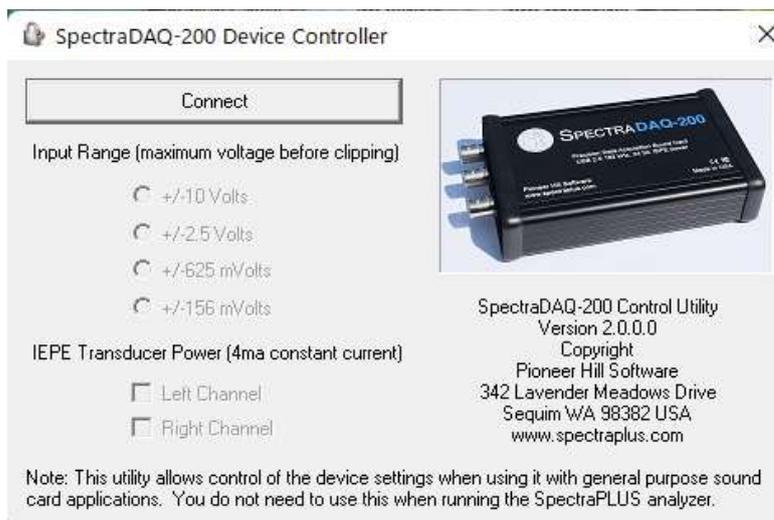
デバイスコントローラアプリの設定と起動:

デバイスコントローラアプリのインストールファイル「SpectraDAQStandaloneDeviceController」をダウンロードし、展開/解凍します。

*)当該アプリには V.1と V.2 がありますのでご注意ください。SpectraDAQ-200 v.2 では V.2 を使用します。

- v.1: <https://www.spectrasoft.jp/archive/SpectraDAQStandaloneDeviceController.zip>
- v.2: https://www.spectrasoft.jp/archive/SpectraDAQStandaloneDeviceController_v2.zip

1. 展開後に生成される「SpectraDAQStandaloneDeviceController」フォルダを開きます。
2. 「DAQDeviceControl.exe」をクリックしてアプリを起動します。
3. 「Connect」ボタンをクリックし、使用するデバイス名を選択します。



Input Range:

DAQ の入力ゲインを制御します。設定は両チャンネルに適応されます。レンジ値は最大入力レベルを表します。入力レンジを 156mVolts にセットすると、約 1 μ Volts が限界値となります。

IEPE Transducer Power:

をマークすると、IEPE パワー(24 Volts DC/4 mA)をチャ

ンネル毎に供給します。

- **Sampling Rates / Bit Rates:**

48000 / 96000 / 192000 (Hz)

24 / 16 Bits

- **コネクタ:**

フロントサイド: BNC Input Lch/Rch、BNC Output Lch

リアサイド: 3.5mm ジャック Lch/Rch Analog Output

リアサイド: RJ45 COM API コントロール(SpectraPLUS 用途)

備考:

設定値はデバイスの USB 接続を切断あるいは、PC からの電源供給を終了しない限り維持されます。

また、当該アプリ「DAQDeviceControl.exe」は、終了時に最後の設定値を自動保存します。従って、デバイスの再接続時に保存値が SpectraDAQ-200 に反映されます。

- 完 -